

要配慮者の避難所生活

サポートブック

～障害のあるかたと共に過ごすために～

日進市障害者自立支援協議会

権利擁護部会

## ・ ・ はじめに ・ ・

このサポートブックは「障害のある方が、住み慣れた地域で、自分らしく、安心・安全に暮らしていけるように」という願いのもと、平成 25 年 6 月に作成されたものです。

自立支援協議会の専門部会には、障害のあるお子さんを持つご家族も所属されており、震災が起こった際の避難についての話が出たときに、「とてもじゃないが、子どもを連れての避難所など考えられない」「家が傾いてもぎりぎりまで自宅にいて、倒壊したらテントを張ります」という言葉が出ました。その理由としては、「障害のことを知らない人がたくさんいる中で、ましてや皆さんが避難して大変な時に我が子がパニックになり迷惑をかけるのが分かっている」とのことでした。

そうであれば、障害のある方々のことを少しでも知ってもらおう、出来れば理解してもらおうと奮起し、四苦八苦しつこのサポートブックができました。

このサポートブックで全てがわかるというものではありませんし、かつすべて正しいというわけでもありません。一人ひとりの方の抱えている「困りごと」はそれぞれ違います。

皆さん一人ひとりが、障害のある方（困りごとを抱えている方）を少しでも知っていただくことが、日常生活のみならず、避難所での生活がより安心できる第一歩かと感じております。このサポートブックを通して、皆さんと一緒に「共に生きる」ことをあらためて考えていければと願っております。

# ● ● 目次 ● ●

## 1 場面で困る事、対応方法について

避難所での居場所	P1
移動するとき	P2
コミュニケーションをとるとき	P3
パニックになっている方がいるとき	P4
感染症対策をするとき	P5

## 2 障害の特徴（障害種別）

身体障害（肢体不自由）	P6
身体障害（視覚）	P7
身体障害（聴覚）	P8
内部障害	P9
知的障害	P10
発達障害	P11
精神障害	P12
高次脳機能障害	P13
難病	P14
重度心身障害	P15
コミュニケーションボード	P16
ヘルプマーク・ヘルプカード	P18

# 避難所での居場所

## ① 困ること

- いつもと違う場所で自分のいるところがよくわからないことがあります。
- 不安や混乱から避難所で落ち着いて過ごすことが困難なことがあります。
- 移動経路がわからない、外に出ようと思っても出ることができないことがあります。
- 避難所内の連絡事項や生活情報を見ることや理解が難しいことがあります。
- 治療、医療が必要な状態であるため、避難所で過ごすことが困難なことがあります。
- 避難所の非常食を食べることが難しいことがあります。
- 補助犬がいないと身動きがとれなくなることがあります。

## ② 対応のポイント

**まずは、移動が困難な人に入口近くの場所を確保しましょう。**

- 落ち着いて過ごすことができるように別の部屋を用意しましょう。
- 外に出たり、避難所での移動がしやすい居場所を確保しましょう。
- 連絡事項や生活情報を紙に書くだけでなくその都度、読み上げましょう。
- 医療行為が必要な場合は、早急に医療機関につなげましょう。
- 周りの方のアレルギー等に配慮しながら、居場所を確保しましょう。

**安心、安全に避難生活を送れるようにそれぞれの状態に合わせた居場所の確保をしましょう。**



# 移動するとき

心身の状態によって移動することが困難な状況があります。

## ① 困ること

- 目が見えなくて周囲の状況がわからず、移動が難しいことがあります。
- 通路に物が散乱していて車いすや杖での移動が困難なことがあります。
- 物事を覚えにくく、目的の場所までの移動が難しいことがあります。
- いつもと違う状況や環境で、どこに行けばいいのかわからないことがあります。

## ② 対応のポイント

その方に合わせて避難所で移動をしやすいように配慮しましょう。

- 車いす等が通れる通路を確保し、トイレ等必要な場所へ移動できるようにしましょう。
- 移動が困難な方は、あらかじめ移動をしやすい避難所の居場所を確保できるようにしましょう。
- 段差があり移動することが困難な場合は、資材等で段差をなくしましょう。

移動ができず、ウロウロしている方がいたら声をかけましょう。



① 誘導の指示がわからない、どうしたらいいのかわからなくなっている様子が見られたら、やさしい口調で声をかけましょう。

② 声をかけてもわからない様子が見られたら付き添って安全な場所（人が少ない場所、静かな場所）へ誘導しましょう。

※声のかけ方などはコミュニケーションの項目（P3）を参照してください。

※視覚障害の方の誘導の仕方については障害種別（身体障害【視覚】P7）を参照してください。

# コミュニケーションをとるとき

## ① 困ること

- 緊張したり、混乱をしたりしているため話をすることが難しいことがあります。
- 相手の言うことがわからないこと、理解できないことがあります。
- 音声言語によるコミュニケーションが取れないことがあります。
- 一度聞いた話でも忘れてしまうことがあります。



## ② 対応のポイント

**笑顔でゆっくり、やさしい口調で声をかけましょう。**

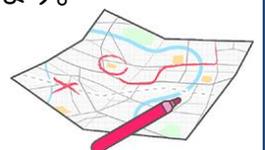
- 声をかけるときは前から声をかけましょう。後ろから声をかけると驚いたりパニックになったりします。また、耳の聞こえない方は気付かないこともあります。
- 自分の立場や名前などを伝え「何か困っていることはありませんか」などと声をかけましょう。具体的に、簡潔に声をかけるようにしましょう。

**声をかけたら少し様子をみましょう。**

- 様子をみても反応がなかったり、混乱をしたりしているような状況がみられたら、文字や身振り、筆談、パソコンや携帯電話の文字表示など、あらゆる手段を駆使して情報を伝えるようにしましょう。

**相手の様子に合わせて話を聞くようにしましょう。**

- 人が少ない場所や静かな場所へ移動して、安心して話ができるように、リラックスした雰囲気を作りましょう。
- 話すのに時間がかかっても、ゆっくり待って対応をしましょう。
- 言葉が出ずに困っている様子のときは、こちらから状況や気持ちを推測して質問しましょう。この場合、「はい」「いいえ」で答えられるように質問しましょう。
- 自分の気持ちを言葉にできない方には「コミュニケーションボード(PI6)」を使うことによってやり取りができる場合もあります。
- 抽象的な表現は避けて「あと5分」など具体的な言葉で説明をしましょう。
- 大切なことはメモに書いて渡すようにしましょう。



# パニックになっている方がいるとき

## ①こんな様子が見受けられたらパニックになっている可能性があります

- 大声をあげたり、奇声をあげたりしている。
- 耳をふさいで動きが固まっている。
- 突然怒り出したり暴れたりしている。
- 動悸、胸の痛み、めまい、吐き気、息苦しきの訴えがある。



パニックは予定外のことが起きる、狭いところ、人混み、音やにおい、人に触られる、体調不良や過去の怖い経験を思い出すなど、様々な状況に起因する不安や恐怖感情によって起こることが多いです。

## ②対応のポイント

### 生命の危険を回避し、怪我などをしないように対応しましょう。

- 危険な場所や物から遠ざけることが必要です。「大丈夫ですか」と声をかけ、「危ないので一緒に〇〇（具体的に）行きましょう」など、何をするか具体的に伝えて安全な場所へ誘導しましょう。
- 安全な場所であればそのまま落ち着くまで見守りましょう。

### 落ち着けるように不安などを取り除きましょう。

- 怒鳴る、抑え込むなど強引な対応はかえって不安が増大する場合があります。
- 必要に応じて別室等に案内し、静かなところで落ち着けるようにしましょう。

### やさしい口調で言葉をかけましょう。

- 最初にやさしい口調で話しかけ、落ち着いたらやさしい言葉で伝えましょう。
- 注意するときは「走ってはいけません」というような否定的な言葉使わず、「歩きましょう」という肯定的な言葉でやさしく伝えましょう。
- ルールがわからずパニックになっている場合もありますので、やさしい言葉で簡潔にルールを伝えましょう。

# 感染症対策をするとき

実践が難しい場合や実践することによって  
新たな支障が生じている場合があります。



## ① 困ること

- 触覚などの感覚に過敏で、マスクなど皮膚に触れるもので身体的に違和感を覚えたり痛みを感じたりすることがあります。
- 人が常時マスクを着けた姿がこれまでのイメージと異なるため、拒否的な反応を示すことがあります。
- 感覚の過敏さにより、手洗いやアルコール消毒が難しいことがあります。
- 人との距離感をつかめず、距離をとることが難しいことがあります。
- 上肢障害により、アルコール消毒の操作やマスクの着脱が難しいことがあります。
- 車いすを使用しているため、消毒液に手が届かないことがあります。
- マスクを着けていると口の動きが読めず、相手の話していることが分からないことがあります。

## ② 対応のポイント

- 困っている方がいたら、やさしい口調で声をかけましょう。
- マスクや手洗い、消毒の必要性が理解できない場合もあります。柔軟な対応をしましょう。
- 必要に応じて別室で過ごせるようにしましょう。
- マスクや防護服、ヘアキャップ、グローブといった感染防御資材を使用し、支援側が予防に努めましょう。
- アルコール消毒などの手助けをしましょう。
- アルコール消毒は車いすの方でも手が届く位置に設置しましょう。
- マスクにより、口の動きが読めない方には、筆談で対応する等工夫しましょう。

# 肢体不自由



肢体不自由とは先天的か後天的かを問わず、四肢の麻痺や欠損あるいは体幹の機能障害のため、日常の動作や姿勢の維持に不自由があります。

## ① 主な特徴

- みかけの判断で、自力で対処または、避難等できるのではないかとわかって、緊急に必要な支援が行き届かないことが多いです。
- 行動や動作の仕方は一人ひとり異なります。握力や体力が十分でない場合は、物につかまることがや支えることが難しく、下肢に障害があれば、手を引かれても体がついていけないことが多いです。

## ② 避難所で困ること

- 物が散乱していると、移動が難しくなります。
- 移動が難しく、食料や飲料水を取りに行けず支給が遅れてしまうことがあります。

## ③ 対応のポイント

- 移動ができるように出入口や段差などは資材などでスロープを作りましょう。
- 通路やトイレも車いすが通れる間隔を確保しましょう。
- 何ができて何ができないか本人から聞いておくことが大切です。



# 視覚障害



視力、視野に障害があり、まったく目が見えない方、見える範囲が狭い方、視力がほぼない方など、人によってさまざまな視覚の障害があります。

## ①主な特徴

- 周囲の状況がよくわからず目的の場所へ移動することが困難です。
- 文字の読み書き、図形・絵の読み取り、表現が困難です。
- 食事、衣服の着脱など日常生活行動をスムーズに行うことが困難です。



## ②避難所で困ること

- 連絡事項や生活情報を紙に書いて張り出しても、見るのが難しいです。
- 物や人がいると移動が困難になります。自分のいる場所もわかりにくいです。

## ③対応のポイント

- 連絡事項や生活情報を読み上げるなど、音声で情報が確実に伝わるようにしましょう。
- 別の部屋や出入口の近くなど移動しやすい場所を優先的に確保しましょう。

## ～移動の際の誘導の仕方～

- ① 前に立ち、肘や肩を持ってもらいましょう。
- ② 腕は自然におろし、振ったりしないようにし、半歩前を歩きましょう。
- ③ 歩く速さは相手に合わせるようにし、強く握られたり、服が引っ張られるような感じがした時は、速すぎたり不安を感じているので、速度をゆっくりにしましょう。
- ④ 幅は常に2人分空けるようにし、段差や坂道の場合は「段差があります」などと声掛けをしましょう。

### トイレ等の利用について

便器の位置、カギの開閉方法、利用する向き、トイレットペーパーの位置、水洗の方法、手洗いの位置等を説明し、利用中は外で待っているようにしましょう。

# 聴覚障害

まったく音が聞こえない方、音は聞こえなくても話をする事ができる方、補聴器や手話を使って話をされる方などがいます。

## ①主な特徴

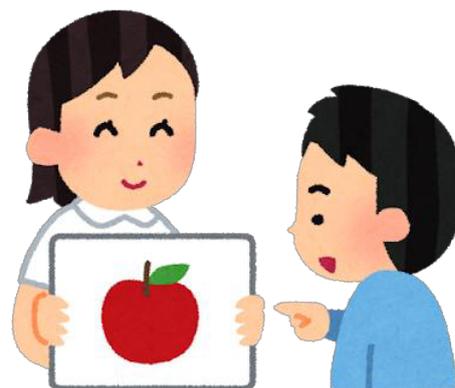
- 外見上わかりにくいことが多いです。
- 意思疎通が困難になるだけでなく、情報を得ることが困難になります。
- 手話を利用したり、文字で通訳が必要であったり、人によってコミュニケーションの取り方も異なります。

## ②避難所で困ること

- テレビやラジオでの情報や、案内放送などの情報を得ることが難しいです。
- 普段利用している FAX やメール、テレビなどが災害時は使えなくなります。

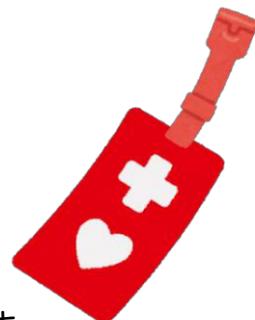
## ③対応のポイント

- 身振りや手振り、筆談（紙に書く）パソコン・携帯電話の文字表示などあらゆる手段を駆使して情報を伝えましょう。
- 情報を文字化して伝言板などに張り出しておきましょう。
- 情報が遅れて伝わることで不利益になったり不安になったりしないようにアナウンス等と同じタイミングで伝えましょう。



# 内部障害

内部障害は心臓、腎臓、呼吸器、膀胱、直腸、小腸、免疫機能、肝臓など外見から見えない部分に疾病や障害があります。



## ①主な特徴

- ペースメーカーの方は、携帯電話の影響を受ける恐れがあります。
- 人工透析治療が必要な方は隔日で治療を受ける必要があります。
- オストメイト(人工膀胱、人工肛門)の方は、洗浄・交換等でトイレを使用した場合に時間がかかります。
- 在宅酸素の方は、電源や酸素ボンベの確保、取り扱いに注意が必要です。
- 肝臓機能障害では、ウイルス性肝炎の方もみえます。空気感染はありません。
- 糖尿病の方ではインスリン注射が必要な方がいます。
- 症状や病状によりタンパク質や塩分、カリウムを控える等の食事への配慮が必要な方がいます。

## ②避難所で困ること

- 見た目では分からないため、障害の理解や配慮がされづらいです。
- 医療的な処置が常に必要な方がいます。
- 免疫力が低下しているため、感染症にかかりやすいです。
- 呼吸器機能障害により呼吸困難が生じる、動物の毛等が苦手なことです。
- ウイルス性肝機能障害の方が出血を伴った場合は感染する危険があります。

## ③対応のポイント

- 携帯電話の使用やタバコの煙などできることは配慮をしましょう。
- 電源の確保が必要な場合があるので、確保できるよう配慮しましょう。
- 半径5メートル以内に動物を近づけることを控えましょう。
- ケガなどに対応する際は予防のために手袋を着用しましょう。

# 知的障害

先天性または出生時などに、脳になんらかの障害を受けたために知的な発達が遅れ、他人とのコミュニケーションなど社会生活に困難が生じる障害です。

## ①主な特徴

- 衣食住には保護や見守り、介助が必要となります。
- 話の内容が理解できなかったり、自分の考えや気持ちを表現したりすることが難しいことが多いです。
- 判断したり、見通しをもって考えたりが苦手なことが多いです。
- 読み書きや計算が苦手な場合が多いです。
- 困ったことがあっても自分から助けを求められないことが多いです。

## ②避難所で困ること

- 災害による異常事態で情緒不安定やパニックなどが起こることがあります。

## ③対応のポイント

- 困っている様子がみられたら具体的に、わかりやすい簡単な言葉でゆっくりと説明しましょう。
- パニック時には、仕切られた空間などで落ちつけるようにしましょう。
- 話の内容がわからなくても表情で判断することが多いので、穏やかなやさしい表情で話しましょう。
- 絵や図を使って説明すると理解しやすいことがあります。

# 発達障害

先天的な脳の機能障害によって、主に乳児期から幼児期にかけて独特な発達特性が現れ始めます。ことばの理解や対人関係の育ちに遅れや偏りが生じる障害です。

## ①主な特徴

- こだわりが強く、突発的な出来事や予定変更の対応が苦手なことがあります。
- 時間の感覚がわかりにくい、不快と感じる音を聞き流せないことがあります。
- 相手の話の理解が難しい、思っていることをうまく伝えられないことがあります。
- 興味のあるものをすぐ触ったり、手に取らずにはいられないことがあります。
- 目的もなく歩き回ったり、そわそわして休みなく動いていることがあります。
- 感覚が過敏で、音や光、味で苦手なものが多いことがあります。

## ②避難所で困ること

- 災害後の混乱した状況に不適応を起こし情緒不安定になったり、退行な現象がみられたりするがあります。
- 環境適応が苦手なため突発的な状況変化の把握が困難であり、臨機応変に対応することができない場合があります。

## ③対応のポイント

- 大部屋ではなく他の人達から離れた避難場所を作ることによって落ち着くことが多いです。
- 放送などの伝達や張り紙が伝わらないことがあるので、絵が描いてある紙などを使い、伝わりやすいようにしましょう。
- 一人ひとり特徴が異なるため、その人に合わせた対応をしましょう。

# 精神障害

脳の機能に障害が起きることによって、日常生活や社会生活のしづらさを抱える障害です。適切な治療・服薬と周囲の配慮があれば症状をコントロールしていけます。

## ①主な特徴

- ストレスに弱く、緊張したり、疲れやすかったりします。
- 対人関係、コミュニケーションが苦手な人がいます。
- 警戒心が強かったり、自分に関係ないことでも自分に関係づけて考えてしまうことがあります。
- 幻覚(だれもいないのに声や音が聞こえたり、人が立っているように見える)や妄想(誰かが自分の悪口を言っていると思ったりする)の症状がでる方がいます。

## ②避難所で困ること

- 災害時の突発的な事態に柔軟に対応することが苦手です。
- 自分から援助を求めることが難しく、遠慮してしまいます。
- 不安と混乱から避難所で落ち着いて過ごすことが難しいです。

## ③対応のポイント

- 状況やとるべき行動を具体的に伝えましょう。
- こちらから質問をして、援助が必要か聞いてみましょう。
- 人の少ない静かな環境など、落ち着ける居場所を作りましょう。



# 高次脳機能障害

交通事故や脳卒中などの病気で脳を損傷したことによって、  
認知機能の障害や、行動の障害などの症状がでます。

## ①主な特徴

- 症状が一人ひとり異なり、外見からは障害があることが分かりにくいいため、周りの理解を得ることが難しいことがあります。
- 物事をすぐに忘れてしまったり、新しいことを覚えにくいことがあります。
- 同時に複数のことに注意がはらえなかったり、不注意やミスが多く集中力を保つことが難しいことがあります。
- 計算や計画をして行動をすることが困難なことがあります。
- 感情のコントロールが難しく、子どもっぽくなったり、人や趣味に無関心、自己主張が強くなる、イライラや興奮をするようになることがあります。

## ②避難所で困ること

- 必要な情報をまとめて正しく判断し、行動に移すことが難しくなります。
- 混雑しているところでは、人や物にぶつかったり、避難所への目印なども見落とししてしまうことがあります。
- 避難所での放送内容が十分に聞き取れない、聞き取れても記憶できないために食事の配給などの援助が得られないことがあります。不安と混乱から避難所で落ち着いて過ごすことが難しいです。
- 人が大勢いると、雑音や周囲の様子が気になり、落ち着かないことがあります。

## ③対応のポイント

- ポイントをしばり、具体的に話をしたり、メモに書いて渡しましょう。
- 道や建物で迷ったり、人や物にぶつかっているときは誘導をしましょう。
- 食事の配給など大事な予定や放送がある時はその都度声掛けをしましょう。
- イライラしているときは静かな場所へ誘導したり話を聞くと落ち着きます。

# 難病

国が法律に基づいて認定した難病を「指定難病」といい、令和元年には**333**疾病が認定されています。病気自体の認知度が低いものが多く、周りの方の理解を得ることが難しいこともあります。

## ①主な特徴

- 原因が不明で治療方法が確立されていない希少な疾患で、長期にわたり療養を必要とするものです。
- 症状はそれぞれの病気によって異なり、運動障害、呼吸障害、免疫低下など様々です。

## ②避難所で困ること

- 見た目では、病気があることがわかりにくい場合があります。
- 症状が安定しないことがあります。
- 日常的に医療行為が必要なことがあります。
- ストレスや疲労での症状悪化がみられることがあります。



## ③対応のポイント

- 病気の種類によって必要な支援が異なります。ご本人やご家族の意向を聞きながら対応しましょう。
- 症状の悪化などがあれば必要に応じて医療機関も連絡をとり、対応について相談しましょう。
- 医療行為が必要な方もいますので、避難先は衛生面や環境に配慮しましょう。

# 重度心身障害

重度の身体障害（肢体不自由）と、重度の知的障害が重複した状態をいいます。生活のほぼすべてにおいて介助が必要な方が多いです。

## ①主な特性

- ほとんど寝たままで自力では起きられず、寝返りも難しいことが多いです。
- 自力での移動は難しく、車いすを使用していることが多いです。
- 排泄はほぼ全介助で、知らせることが困難な方も多いです。
- 食事も自力では難しく、食形態はキザミ食や流動食が多く、経管摂取の場合もあります。
- 手・足が変形または拘縮し、側弯や胸部の変形を伴う方が多いです。
- 極度に筋肉が緊張しやすく、思うように手足を動かすことが難しいです。
- 言語による意思伝達や理解、声や身振りでの表現が難しいです。
- 肺炎、気管支炎を起こしやすく、多くの方がてんかん発作を持っています。痰の吸引が必要な方が多く、人工呼吸器や酸素吸入器を使用している方もいます。

## ②避難所で困ること

- 免疫が低く、感染症に罹患するリスクが高いです。衛生物品も必要になります。
- 皮膚トラブルが出やすいため、清潔保持が大切です。
- 床ずれになりやすく、支援物資の毛布のみでは対応が難しいです。
- 呼吸器等の医療的な処置が必要な場合、電源の確保が必要になります。
- 自宅に医療機器（吸入器など）があっても避難所に持ってこられない可能性があります。
- 通常の食事を食べるのが難しく、管で栄養を摂る方がいます。

## ③対応のポイント

- おしりふきやウェットティッシュなどを持っていたら共有しましょう。
- 家族などの支援が必要なことが多いため、困っていると感じたら、手伝えることはないか、声をかけましょう。

# ほしいものはありますか？

Which one do you need?

갖고 싶은 것은 / 想要的东西是

作成：日進市  
日進市障害者自立支援協議会権利擁護部会  
協力：明治安田こころの健康財団



たべる  
Want to eat  
먹고 싶다 / 吃



おにぎり  
Rice ball  
주먹밥 / 饭团



弁当  
Lunch box  
도시락 / 盒饭、便当



パン  
Bread  
빵 / 面包



のむ  
Want to drink  
마시고 싶다 / 喝



水  
Water  
물 / 矿泉水



お茶  
Tea  
녹차 / 茶



ジュース  
Juice  
쥬스 / 果汁



手当て  
medical treatment  
응급처치 / 治疗



薬  
medicine  
약 / 药

気分がわるい  
I feel ill  
몸이 아프고 불쾌하다  
不舒服



トイレに行きたい  
I want to go to the restroom  
화장실에 가고 싶다  
想去洗手间



電話してほしい  
Please call  
전화해 주세요  
帮我打个电话  
誰に  
To whom  
누구에게 / 给谁?





さむい  
I feel cold  
춥다 / 冷



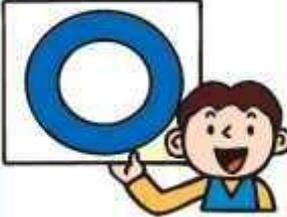
ちょうどいい  
I feel comfortable  
딱 좋다 / 正好



あつい  
I feel hot  
덥다 / 热



待つ  
Please wait  
기다라십시오 / 请稍候



はい  
Yes  
네 / 是



いいえ  
No  
아니오 / 不是



わからない  
I don't understand  
모른다 / 不明白



移動する  
Please move  
이동하십시오 / 转移

## あなたの… What is your… / 당신의 / 你的



名前  
Name / 이름 / 名字



生年月日(年齢) The date of your birth  
생년월일(나이) / 出生年月日(年龄) (Age)



電話番号  
Telephone number / 전화 / 电话



住所  
Address / 주소 / 地址



かかりつけの病院は?  
Do you have regular hospital?  
다니는 병원은? / 有没有固定的就诊医院?

証明書は?  
Your certificate/  
license?  
증명서는? / 证明书呢?



書いてください Please write it down. / 써 주세요 / 请写

「<sup>て だ す け</sup>ちょっとした<sup>ひ つ よ う</sup>手助け<sup>ひ と</sup>が必要な人」と「<sup>て だ す け</sup>ちょっと<sup>ひ と</sup>手助けを<sup>し た い</sup>したい人」  
<sup>き も ち</sup>あなたの<sup>お す か ー と</sup>気持ちを<sup>く</sup>結ぶカードです

## ヘルプカード、ヘルプマーク

### ヘルプマークとは

<sup>み ぎ</sup>右の<sup>あ か じ</sup>赤地に<sup>し ろ し ゅ う じ</sup>白十字と<sup>し ろ</sup>白の<sup>は と</sup>ハートマークがヘルプマークになります。

まずは、「何かお手伝いすることはありますか?」と、声をかけてみて  
ください。ヘルプマークの<sup>う ら め ん</sup>裏面やヘルプカードを<sup>か く に ん</sup>確認していただき、  
そこに<sup>き さ い</sup>記載されている<sup>な い よ う</sup>内容の<sup>て だ す</sup>手助けをお願いいたします。



### ヘルプカードとは

<sup>し ょ う がい</sup>障害のある<sup>か た</sup>方や<sup>な ん び ょ う</sup>難病の方など、<sup>え ん じ ょ</sup>援助や<sup>は い り ょ</sup>配慮

を必要としている<sup>ひ つ よ う</sup>方や<sup>か た</sup>外見では<sup>が い け ん</sup>手助けが<sup>て だ す</sup>いる  
と<sup>わ か</sup>判りづら<sup>か た</sup>い方に、<sup>ひ こ ろ</sup>日頃から<sup>け い た い</sup>携帯して<sup>い た だ</sup>き、  
<sup>さい がい じ</sup>災害時や<sup>に ち じ ょ う せ い かつ</sup>日常生活<sup>な か</sup>の中で<sup>こ ま</sup>困った<sup>さい</sup>際に<sup>て い じ</sup>提示  
するなど、<sup>し ゅ う い</sup>周囲<sup>か た</sup>の方に<sup>り かい</sup>理解や<sup>し え ん</sup>支援を<sup>も と</sup>求める<sup>き っ</sup>き  
かけ<sup>つ く</sup>を作るカードです。



### 対象者

<sup>ぎ そ く</sup>義足や<sup>じ ん こ う かん せ つ</sup>人工関節<sup>し ょ う</sup>を使用している<sup>か た</sup>方、<sup>な い ぶ し ょ う がい</sup>内部障<sup>な ん び ょ う</sup>害や<sup>か た</sup>難病<sup>に ん し ん し ょ き</sup>の方、<sup>か た</sup>妊娠<sup>え ん じ ょ</sup>初期<sup>は い り ょ</sup>の方など、<sup>え ん じ ょ</sup>援助や<sup>は い り ょ</sup>配慮

を必要としている<sup>ひ つ よ う</sup>方（<sup>か た</sup>手帳<sup>て ち ょ う</sup>の有<sup>う</sup>無<sup>む</sup>は<sup>と</sup>問いません）

<sup>こ</sup>個人<sup>じ ん じ ょ う ほう</sup>情報が<sup>か</sup>書かれて<sup>た め</sup>いる<sup>と</sup>為、<sup>あ つ か</sup>取り扱<sup>ふ ん し つ</sup>いや<sup>じ ゅ う ぶ ん</sup>紛失<sup>ち ゅ う い</sup>には十分<sup>と</sup>ご注意ください。

メモ

メモ

**平成25年6月作成 / 令和2年10月修正**

**編集・作成：日進市障害者自立支援協議会  
権利擁護部会**

**問い合わせ：日進市障害者相談支援センター**

**TEL 0561-72-0853**

**FAX 0561-75-6615**

**メール [syougaisoudan@nisshin-shakyo.or.jp](mailto:syougaisoudan@nisshin-shakyo.or.jp)**

**このサポートブックに記載されている各障害の内容は、  
主な特徴や対応方法について記述しているため、  
全ての方に当てはまるものではありません。**